



大学図書館問題研究会京都ワンディセミナーのご案内

OPACによる電子リソース検索とオープンアクセスコンテンツの活用

大学図書館では近年、電子ブックや電子ジャーナルといった、電子リソースの購入と提供が進んでいる。ただし、その提供方法においては、紙媒体はOPAC、電子媒体はリストといった利便性の低い状況が続いてきた。しかし、2007年4月、実践女子大学図書館ではOPACによる電子リソース検索の提供が開始され、OPACから紙媒体も電子媒体も、分け隔てなく探すことができるようになった。また、2008年7月には日本語オープンアクセス誌データベースとそのリンクリゾルバが公開され、日本語オープンアクセス誌へのリンクリゾルバが可能となった。今回のワンディセミナーでは、実践女子大学図書館の事例を元に「所蔵からアクセスへ」の本質について、考えてみたいと思います。

講師：伊藤民雄氏（実践女子大学図書館）

日時：2008年12月7日（日） 14:00～16:40

場所：京都市国際交流会館 第2会議室（TEL:075-252-3010）

京都市左京区粟田口鳥居町2番地の1（市営地下鉄蹴上駅から徒歩6分）

アクセス：<http://www.kcif.or.jp/jp/access/>

主催：大学図書館問題研究会 京都支部

参加費：大図研会員は無料 / 非会員は500円（参加費は当日、会場にていただきます）

タイムテーブル：

14:00～14:10 開会のあいさつ（10分）

14:10～15:40 ご講演（90分）

15:40～15:50 休憩（10分）

15:50～16:40 質疑応答・意見交換（50分）

*終了後、懇親会を予定しております。

※ 申し込み方法については、次ページをご覧ください。

[目次]

京都ワンディセミナーのご案内	…	1
全国大会参加報告 その1 参加しないとわからない！全国大会とは。	…	2
支部委員挨拶	…	5
全国大会参加報告 その2	…	8
第39回全国大会（福岡）全体会での京都支部からの発言について	…	8
大学図書館問題研究会忘年会開催のお知らせ	…	8

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたはURLへお寄せください。

電子メール：dtkk@rg7.so-net.ne.jp（大学図書館問題研究会京都支部）

URL：<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm>

◆ 京都ワンディセミナーへの申し込み方法 ◆

当日参加も可能ですが、できましたら 12 月 4 日 (木) までに、下記のいずれかの方法でお申し込みください。

- ・大図研京都ワンディセミナー申し込みフォームで申し込む。
<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/event/20081207.htm>
- ・支部委員会 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp) 宛に(1)お名前、(2)ご所属、(3)大図研の会員であるか否か、(4)懇親会に参加するか否か、(5)E-mail を知らせる。
- ・奈良教育大学学術情報研究センター図書館 赤澤久弥 (FAX: 0742-27-9147) 宛に
 (1)お名前、(2)ご所属、(3)大図研の会員であるか否か、
 (4)懇親会に参加するか否かを知らせる。

ご不明な点などございましたら、京都支部 支部委員会 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp) までお問い合わせください。

大図研全国大会参加報告 その1 参加しないとわからない！全国大会とは。

山下 ユミ

長い間、会報と支部報を読むだけの会員だったのですが、今年、大図研の全国大会に初めて参加しました。最近、勤めている大学が法人化したことから、「大学」という枠組みを考えることが多くなってきたので、今回は良い機会でした。初参加者の第一印象をここに書きとめます。

1. Web サイトと SNS

今回、参加しようと決めて、改めて全国大会の Web サイトにアクセスしたところ、SNS 導入が試行されていて、面白そう！とあまり理解もせず登録しました。しかし、小心者の初参加者である私は、他の図書館の知らない人たちとハンドルネームでやりとりをすることにためらいを感じ、結局コミュニティへの参加やコメントはしませんでした。この SNS は、分科会でのテーマについて、開催前に議論しようという主旨で作成されたものでした。活発な議論がなされていたのかもしれないと思うと後悔されますが、私が参加した分科会では、特に SNS での討議に関する話題は出なかったので、あまり活発でなかったのかもしれない。閉じられたコミュニティに参加するのは少し勇気がいります。また、たくさんのコミュニティが設置されているので、参加の方法の案内ページや、参加登録があった時点での分科会担当者からの呼びかけなどがあつたら一歩踏み出せたかとも思います。

ところで、会報「大学の図書館」の全国大会特集号には、1日目の「研究発表」「全体会」などについて詳しく書かれていませんでしたので、冊子発行時点では決まっていなかったのかもしれないと思って Web サイトを見ましたが、情報はありませんでした。もしかして、大会の詳細は SNS で公開されているのかも？という期待もあつて SNS に登録したのですが、今回の SNS はそのような情報を公開する場ではありませんでした。

参加してみてわかったことは、「大学の図書館」の特集号が当日のプログラムとなり、一種の抄録集でもあるということでした。何度も参加している人は、この冊子で内容を確認し、当日も持参して役立てておられる様子でした。また、大会当日にも再度配布されていました。大会運営者の方々にとっても、手間を省けて良い方法だと思いました。

当初、最近は多くの研究会で Web サイトに非常に多くの情報を掲載しているため、Web サイトさえ見ておけば、必要な情報と新しい情報が得られると私は考えていました。けれども、例えば分科会を決めるとき、あるいは全国大会の参加申込書を作成するときなどは、この特集号が手許になければ少し困るような状況でした。Web サイトにも基本的な情報は一応書かれているのですが、冊子以下の情報しかなく、新しい情報もあまり掲載されていないので、Web サイトの特性をもっと活かす方法があるように思います。Web サイトのメリットを生かし、リンクなどを使ってわかりやすく、また常に新しい情報を更新しながら掲載していただければありがたいので、ぜひ来年は実現していただきたいと思っています。

2. 全体会

「研究発表」には間に合いませんでしたが、全体会には参加しました。「研究発表」については、ギリギリまで発表者が決まらなかったとのことで、結局当日までほとんどの人が内容を知らなかったようでした。私も参加できずに残念ではあったのですが、たった1人も発表者が決まらないという状況と、全体会より前に配置されているという構成を考えると、この大会においては「研究発表」はあまり重要視されていないことがわかりました。

全体会では、各支部の報告を聞く中で、京都支部が活発な活動をしていることがわかり、積極的に発言する人もあり、幽霊会員ながら嬉しく思いました。けれども全体的には「何か意見のある方は?」「・・・」という時間が多くありました。自分も静寂を助長していたひとりなので申し訳ないとは思ったのですが、どこの大学図書館でも人員削減があり、仕事も多様化して忙しくなる中で、これだけたくさんの図書館員が集結しているのに、何だかもったいない! と歯がゆい思いでした。あまりに静寂が続いたので、最後には「何でもいいので発表してください」と無茶に思われる呼びかけもありましたが、意外とその呼びかけによっていくつか発言があって、各支部での取り組みなどについての話を聞くことができました。

ところで、幹部の人たちが壇上にいて淡々と議事を進めていかれましたが、最後に事務局長さんが、冗談のように笑いながら「形式的に質問しますが、事務局長をやりたい人、いますかー?」と質問されました。なぜ形式的にとおっしゃるのか、なぜ急に壇上からあんな質問をするのか、なぜ笑っているのかと、そのときはしばし呆然としました。やりたいという人はなく、あのパフォーマンスの意味が私にはよくわからなかったのですが、どなたかあの呼びかけの意味を教えていただけませんか。

3. 懇親会

懇親会が始まると、実行委員をしている福岡支部の人たちは非常にテンションが高く、この全国大会を盛り上げて行こうという情熱が感じられ、感動しました。会場には、毎月実行委員会を開いて準備を重ね、ようやくここまで来た! という実行委員の皆さんの喜びがあふれているようでした。私は全体会で感じたことと懇親会との温度差に驚くとともに、この大会の一部だけを見ていた自分を反省しました。

懇親会后、自主企画の「地酒の会」に参加させていただきました。ここでの盛り上がりぶりは、全体会の静けさからは、さらに全く想像できないもので、30人以上の人たちがホテルの一室に集まり、次々と全国から集まった自慢の酒が披露され、隣の人と注ぎあいながらあれこれいただきました。地酒の会だから食べ物は期待するものではないと思っていましたが、あ

る実行委員の方が手作りの料理をふるまってくくださったのが驚きの美味しさで、さらに酒が進みました。

4. 分科会

翌日、午前中の分科会は「図書館システム」を選びました。要求工学の手法を使って図書館システムの仕様書の一部を表してみようというワークショップでした。まず3～4名のグループに分かれて、例えば「図書の目録データを作る」というような一つのタスクを考え、それをシステム開発者になったつもりで「図書館システムは NACSIS から書誌データをダウンロードする」「図書館員は図書 ID を入力する」というようなシンプルな文に分解していきます。その後、それぞれの文を主語（図書館システム、図書館員）、動作（ダウンロードする、入力する）、目的語（書誌データ、図書 ID）、と役割別に分けて図式化しました。が、その図が合っているのか、またどう修正すればいいのかという肝心なところが初心者には難しく、よくわかりませんでした。でも、システムエンジニアの気持ちになって、図書館の素人ならこう考えるだろう・・・という考え方をしてみたことは面白い経験でした。

午後は図書館経営の分科会に参加しました。ここでは大学図書館で受けるストレスがテーマになっており、まず、大学図書館とストレスについてこれまでにどのような研究がなされてきたかという発表がありました。基本的には、大学図書館員が利用者との関わりで感じるストレスに関する話でしたが、私自身は、利用者に対してよりは、事務室内での人間関係等にストレスを感じる人が多いのだが、と感じました。

その後グループに分かれて行ったワークショップの発表を聞くと、私と同じように事務室内、大学内での人間関係や仕事の進め方等にストレスを感じている人も多いようでした。

このワークショップは、各職場で感じるストレスを挙げてその対処法を考える、というものでしたが、自分の中で考えをまとめ、同業者に話を聞いてもらえたというだけで、対処法までは考えられなかったとしても精神的に安定するという思わぬ効果があった気がします。他の図書館で働く方々が持つストレスについて聞いたことで、新たな発見があり、自分の環境と感じるストレスを客観的に見るきっかけにもなりました。

5. その他

全国大会では、いろんな分野の大学図書館の人にお会いできました。飲みすぎて、京都に帰って1週間は胃の調子が戻らなかったくらいです。

全国大会は、大学図書館という枠組みだけが同じで、様々な分野、館種の人たちが集まるためか、大会の正式なプログラムの中では、それぞれが興味を持ったテーマで参加できる「分科会」がメインで活気があり、参加者も多かったように感じました。1日目の「全体会」等是一部の人が集まっているという印象でしたが、実際はどうだったのでしょうか。

こういう大会で、普段はお会いすることのない図書館の方々とお会いすることができて、しかも、今回はストレスの内容まで共有させていただくことができて、とても面白かったです。ご一緒させていただいた京都支部の皆様、ありがとうございました。

やました ゆみ（京都府立医科大学附属図書館）

2008 年度支部委員挨拶

2008年度の支部委員を務めさせていただく9名より、簡単ながらご挨拶させていただきます。

■赤澤 久弥 (支部長 / 組織・財政)

支部長を務めさせていただくことになりました。微力ながら、京都支部の活動をいっそう盛りたてていければと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

さて、京都支部では、会員の皆様に引き続き様々な「場」を用意させていただきたいと思えます。気軽にご発表いただける場としての支部報、支部活動をお知らせし皆様をつなぐ場である支部サイト、最新情報を得ることのできる場のメールニュース、そして皆さまに関心をもっていたいただき、また人との出会いの場となるセミナーの企画などです。

そこで会員の皆様には、お気軽に支部活動に参加していただくとともに、支部活動へのご意見やご希望をどんどんいただければ幸いです。そして、多様な世代や立場の皆さまに、新たに会員として加わっていただけるような活動ができればと思っています。

あかざわ ひさや (奈良教育大学学術情報研究センター図書館)

■池田 貴儀 (研究企画 / 支部報編集)

今年度も引き続き京都支部委員を務めさせていただきます池田と申します。支部委員とともに常任委員、会報「大学の図書館」の編集委員も務めております。普段は原子力の専門図書館にて、原子力関連の研究開発成果を取りまとめた研究レポートの編集・刊行及び外部からの著作権許諾対応(転載許諾、翻訳許諾 etc...)等の業務を行っています。

業種は異なりますが、図書館が抱える課題や悩みは大学図書館とも共通するところがあると思いますので、支部委員の活動を通じて色々と情報交換等していければと考えています。最後になりましたが、今年度1年間よろしく願いいたします。

いけだ きよし (日本原子力研究開発機構研究技術情報部)

■大綱 浩一 (副支部長 / Web サイトとML)

2008年度支部委員を務めます、京都大学附属図書館の大綱浩一です。

支部のホームページ (<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm>) と
メーリングリスト (yurikamome@mma.so-net.ne.jp) を担当します。

ホームページでは、支部会員の交流を図るべく、「支部会員リンク」を公開しています。ホームページをお持ちの方は、支部のホームページから URL をお知らせください。それでは、支部委員5年目となりますが、1年間どうぞよろしく願いいたします。

おおつな こういち (京都大学附属図書館)

■坂本 拓 (支部報印刷と発送 / メールマガジン)

先輩に誘われ大図研に入って、早いことに2年も時間が経ってしまいました。この、「時間」とは不思議なもので、古代ギリシャから今日まで多くの哲学者によって議論がなされています。その中でも、どこまでが「現在」で、いつそれが「過去」になってしまうのか、ということは興味深い問題です。時間は常に止まることなく流れているからです。私は今、この原稿を書いています。今、「今」と言ったばかりなのにそれはもう何秒か前の過去の出来事になっています。

ショーペンハウアーは、人間が、時間という概念を創出した契機について次のように考察しました。

何もなければ、「現在」という感覚がずっと続いているが、眠ることによってその連続性が途切れてしまい、目が覚めた時には、眠る前のことが「過去」になってしまっているのだ、と。

幸い私は、2年前に大図研に入った頃の気持ちはまだ「過去」になることはなく、充実した「現在」という時間を持つことができます。

眠りこけることなど無く、2008年度もより活発な京都支部を作っていけるように、皆様とともに頑張っていきたいと思います。また一年、どうぞよろしくお願いいたします。

さかもと たく (京都大学文学研究科図書館)

■辰野 直子 (支部報編集 / Web サイトとML)

最近、入会以前の支部報を目にする機会があり、いまの京都支部を築いてこられた方々の存在をあらためて感じました。

支部委員を務めさせて頂いて6年目になります。5年間を振り返ると、大図研を通じて経験したことやお会いできた方々の少なくないことを思います。

伝統を大切にしつつも発展していく、そして、会員の皆様の経験や出会いの「きっかけ」となれる京都支部になるために、微力ながら力をつくしたいと考えています。

今年度も宜しくお願い致します。

たつの なおこ (滋賀医科大学附属図書館)

■長坂 和茂 (研究企画 / 支部報印刷と発送 / 組織・財政)

今年度より京都支部の支部委員になりました、長坂と申します。現在、京都大学経済学部図書室の整理掛で目録を担当しています。

大学図書館「問題研究」会に居ながら、現在大学図書館において何が問題となっているのかもよくわかっていないのが私自身の現状ですが、支部委員の活動を通じて、皆さんと問題点を共有し、解決策を模索していくことができたらと思っております。これからどうぞよろしくお願いいたします。

先日、三国志好きが高じて、中国語はおろか漢文さえ読めないのに、神保町で「三國會要」(BN07215962)を購入しました。次の目標は「三國志集解」(BN07172575)と「中國歴史地圖集」(BA3943181X)です。もちろん、本棚のインテリアとして、ですが。

ながさか かずしげ (京都大学経済学研究科図書室)

■西野 紀子 (研究企画 / 支部報編集)

はじめまして、こんにちは。この度、大図研京都支部委員の一員に新たに加えていただくことになりました、西野です。理工系図書館のレファレンス業務と利用者教育を担当しております。理工系は学生時代に最も苦手としていた分野ですが、学生や研究者から持ちこまれる質問に対応する中で、今まで知り得なかった理工系の世界に連れて行ってもらえて、忙しいですが充実した毎日を過ごしています。支部委員としてのお仕事は、右も左もわからない状態ですが、少しでもお役に立てるよう頑張っていきます。よろしくお願ひ致します。

にし のりこ (立命館大学図書館メディアセンター (委託職員))

■若松 克尚 (支部報編集 / 全国委員)

今年度も支部委員を務めることになりました、若松です。今年度は、全国委員も務めることになりましたので、支部活動のPRとともに、支部運営にも貢献していきたいと思ひます。

わかまつ かつひさ (京都造形芸術大学芸術文化情報センター)

■渡邊 伸彦 (研究企画 / 組織・財政)

巷のお笑いブームにも変化が訪れて、「3分そこそこで如何に笑いを取れるか」などという極めてスピード重視な番組が、とても好評だそうす。次から次へと芸人が入れ替わり、新しいネタを続けざまに見せてくれるのは、なるほど、とても愉しいものです。一方、5分、10分とじっくりネタをやって、何度も笑わせてくれるスタイルのお笑いも、決して面白くなくなったわけではありませぬ。スピード勝負のものも、じっくり腰を据えてのものも、それぞれに面白さがあり、「お笑い」という分野の裾野は未だに拡がり続けているという証左なのかもしれませぬ。翻って図書館をみると、やはりスピードが要求されるサービスから、じっくりと保存する機能まで、幅広いものを求められます。また、双方向サービスなど、技術革新に伴う全く新しい試みがおこなわれており、裾野の拡がりを感じずにはいられませぬ。この拡がりゆく図書館という分野を生き抜けるよう、会員のみなさんへさまざまなサポートができたらいいなあ、なあって思う次第です。

あ、どうも、渡邊です。今期も、よろしくお願ひします。(2008/10/8 22:43 レッ○カーベットSPを見ながら記す)

わたなべ のぶひこ (京都大学附属図書館)

◇ 会費納入のお願ひ ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願ひしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に2008年度(大図研会計年度2008.07-2009.06)に入っておりますので、2008年度の会費の納入をお願ひ致します。また、2007年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願ひ致します。

会費は、¥7,000(大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000)です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部(dtck@rg7.so-net.ne.jp)、または支部委員(組織・財政担当)の大綱浩一 まで。

大図研全国大会参加報告 その2

第39回全国大会（福岡）全体会での京都支部からの発言について

赤澤 久弥

全国大会初日に開催される「全体会」は、「大学の図書館」議案書号に基づいて、大学図書館をめぐる諸問題について討議し、また昨年度の大図研活動を総括するとともに、次年度活動方針を決める場とされています。

今回の福岡大会前には、京都支部メーリングリスト“yurikamome”で、全体会に参加できない支部会員の皆様からのご意見・ご提案をお募りしました [yurikamome:519], 20080818)。そこで、全体会での京都支部からの発言趣旨を簡単なながらご報告いたします。

まず、議案書では全体として会員の減少傾向が指摘されているところですが、京都支部の会勢としては、退職等に伴う退会者もありながら、近年になく多くの入会者を得ることができたことを伝えました。また「猫の司書さん」関係者をお招きし、多様な参加者を得て盛会であった新春合同例会の例など、セミナー企画の実施について報告しました。

また、要望として、議案書号(6月号)に掲載される「討議資料」や各議案を大会前にweb上に公開して欲しいことを発言しました。併せて、これは新たに入会し手元に議案書号がない会員でも事前に確認しやすくするためであり、さらには会員外に対して、大図研活動のアピールになる意義があることを伝えています。

さて、今号では全国大会初参加の支部会員から、参加報告をご寄稿いただいています。タイトルどおり、全国大会は「参加しないとわからない」ですし、またご報告にあるとおり、あらたな知見やなにより人とのつながりなど、参加しないと得ることのできないことは多いかと思えます。

大学図書館問題研究会は、会員自身が作っていく組織だと考えます。については、大図研活動へのご意見やご要望をお寄せいただき、また全国大会はもとより、支部行事等へもお気軽かつ積極的にご参加いただけましたら、より幸いです。

最後になりましたが、福岡大会を盛会裏の終了に導かれたすべての皆さまに、この場を借りてお礼申し上げます。

あかざわ ひさや (奈良教育大学学術情報研究センター図書館)

◇大学図書館問題研究会忘年会開催のお知らせ◇

京都支部では2008年の忘年会を下記の通り開催します。

皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2008年12月19日（金）19:30～

場所：季節料理 門

京都府京都市左京区田中門前町8

<http://r.gnavi.co.jp/k630000/>

TEL：075-721-3301

(アクセス) 京阪鴨東線出町柳駅

徒歩10分

